

# 「播磨臨海地域道路」は数千億円の税金のムダづかい 国道2号バイパス渋滞の解消は出入口や公共交通の改良で

「播磨臨海道路のムダを止める会」が9月21日、姫路自治福祉会館で「知ってる？必要？播磨臨海道路、考えよう私たちの街への道への道」と題し学習会を開催し、約50名が参加しました。学習会は姫路民商事務所の利根氏が司会し日本共産党姫路市議団から大脇和代団長と杉本ちさと県議が報告と挨拶を行い、講師の松本滋兵庫県立大学教授が「播磨臨海道路計画の問題点」と題し講演しました。

大脇市議は「日本共産党は9月議会で谷川議員が一般質問で播磨臨海地域道路建設計画について、

①国道2号バイパスの通過交通が7%というのは台数計算で、キロ台数計算ではなく科学的でない、もっと通過交通量は多いのではないか、②渋滞解消のため既にある高規格バイパスの近くに更に高規格の車専用道路を作れば渋滞で利用しない人までバイパスを利用し更に渋滞が増え、渋滞の悪循環が起る、③科学的な根拠なく数千億円もの費用のかかるムダな公共事業は止め、空港やドームの教訓を生かすべきだと主張しました」と報告しました。

杉本県議は「播磨臨海道路網計画は平成12年ぐらい、堀川前市長時代からあった。国土交通省の計画では当初、明石・大久保インターから白浜までの計画だった。急に姫路の湾岸部・環状線としてプラスされ網干・西バイパスまでの計画が浮上した。県は昨年3千万円の計画予算を組みコンサルに調査を依頼した。図面・予算は明らかにならず一方的に計画を進めて

いる。1km百億円として50kmで数千億円はかかる。県・市とも国の秋の道路整備中期計画(素

## 2号バイパス通過交通は、少なくとも30%以上では？

松本教授は初めに「環境の危機と公共工事削減の時代に、せつかく1200億円ものムダな播磨空港建設を中止させた教訓を生かさず、相変わらずムダな公共事業を推進しようとしている」と指摘し次のように報告しました。

道路の必要性計画を知らせる播磨臨海地域道路協議会が発行したヒラ「はりま道するべ」は次のような重大な問題があると批判しました。

- ①建設理由の唯一の根拠とも言うべき「2号線バイパスの渋滞解消」以外は全く建設根拠がないこと。
- ②同時に「バイパスの渋滞」そのものも臨海道路建設で解消しない。
- ③「バイパスの渋滞」の原因は朝夕の通勤ラッシュや出入口の渋滞や事故渋滞が原因でありバイパス改良や公共交通改良でかなり緩和できると指摘しました。

そして、現在の時代的背景とし

案)に載せようとしている。計画は明らかにせず、工事を優先する区間・工区をコンサルに調査させようとしている。住民に本当の情報を明らかにせず、始めから「臨海道路建設ありき」の立場で「通過交通の振り替え」など「渋滞の解消」も他の方法を一切検討せず推進しようとしている」と報告しました。

て人口減少や経済活動が今後縮小していくこと、環境問題として車依存社会から脱却し「コンパクトシティ」を建設すべき。財政的にも、①高規格道路や橋脚など公共建設物の保守・保全だけでも大きな財政負担がある、②播磨臨海地域に高規格道路を建設することは播磨地域住民だけの問題でなく、道路特定財源の使い方は福祉・暮らしのために使うべきだと指摘しました。更に建設にともなう海岸線の自然・景観の破壊や公害を拡散することも重大だと指摘。

「渋滞解消の対案」としては、①2号線バイパスそのものの改良、②バイパスの大型車両通行禁止などの規制(認可証ETC等)によって姫路市内の東西通過交通をあまり利用されていない山陽自動車道や中国縦貫道に振り返ることが最大の渋滞解決になると強調し、③基本的には自動車交通量を

抑制する交通政策「車なしで暮らせる社会」建設をめざすべきと主張しました。

「はりま道するべ」の臨海道路ができることによって「生活道路の車が減る」「駅までのアクセスがスムーズ」「バスが時刻表どおり来る」「緊急自動車が早く来る」などは全く根拠が無いことを詳しく説明。また、訓急災害時にも2号バイパスが遮断されるような災害時には同様に臨海道路も遮断されること。臨海部に2本も高規格の幹線ができれば逆に公共交通の活用がしにくい環境になるなど具体的に指摘し、仮に播磨地域を高速で明石・東詰めまで移動しても神戸市入り口で大渋滞になることなど指摘しました。

そしてヒラの問題が非科学的な「国道2号バイパス」の「通過交通」「地域内街の移動」「地域内の移動」を示した円グラフであると指摘し、7%通過交通、45%内外移動、48%地域内移動という数字は台数計算に基づくもの。この数値で通過交通は少なく、山陽道等への振り替え交通効果は少ないなど言うのは「初歩的な間違い」で巨大な公共事業を計画する資格など全く無い、と厳しく指摘しました。少なくとも常識的には30%以上は振り替え対象となり得ること、IT活用したバイパス交通規制が必要なることを強調しました。

## 公約実現めざしてがんばります

市議員 大脇和代



市議員 谷川まゆみ



市議員 森 ゆき子



市議員 入江次郎



# 日本共産党姫路市議団が委員会審査で活躍

## JRはりま勝原駅周辺工事は、十分な情報提供を

### 新日鉄広畑降下ばいじん改善指導の徹底を

### 市の臨時職員の時給が 10月1日から700円 4月より713円に



大脇和代議員 建設委員会

#### 山特鉄鋼スラグ野積場の指導を

9月14日、建設委員会が開催されました。都市局では、市街地開発行為の特例として認めていた開発行為（5ヘクタール）を廃止する条例をはじめ、来春に開業するJRはりま勝原駅の区域にかかわる建築物の制限に関する条例等

4件の議案がありました。大脇議員は、条例を改正する場合、関係する住民の意見をよく聴取することを求めました。

はりま勝原駅の工事が始まってからも不満の声が届くのはなぜでしょうか。駅は周辺住民にとって

必要性は高いものの、市の要望駅であるため、9割が姫路市の負担です。総事業費約53億円（うち駅舎約12億円分の1割がJR負担）と多額であることから、市民に情報提供、説明の上の議論を干

また、広畑の降下ばいじん調査

手法の不十分さを決算委員会でも重ねて指摘しました。

環境局では、市川美化センターの工事契約について、18億7千万円の焼却設備の大規模設備工事が、三菱重工環境エンジニアリングに98・9%で二社参加で落札されたことに談合の危険性があるのではと質問しました。答弁では、10社のアクセスがあったものの、最終的に一社しか応札がなく、大規模施設の建設請負事業者が改修に際しての合理性も考えられることとした。

結果は、依然として夏・秋に目安値を超えることから、南に位置する新日鉄の責任が重いと、指導の徹底を求めました。さらに山陽特殊製鋼の鉄鋼スラグを購入業者が淡路島に野積み放置していた問題で、業者や企業がルールを守る指導責任を要望しました。

建設局においては、市職員が歩道の水溜り解消工法「ミズタマラーズ」の特許をとったことは、昨今職員の不祥事が多かった中で明るい話題であり、高く評価されるべきと職員を激励しました。



入江次郎議員 総務委員会

#### 臨時職員賃金を時給1000円に

入江次郎議員は9月14日開催された総務委員会にて次のように質問をおこない、当局の見解をたずねました。

市役所臨時職員の待遇については、9月に中央の最低賃金審議委員会が各都道府県の労働基準監督署へ最低賃金の引き上げを要求し

ました。兵庫県には14円の引き上げが要求されています。現在、県の最低賃金は684円です。14円の引き上げが実施されると、

698円になります。本市の臨時職員の時給は694円で、県の最低賃金を下回ることになりました。臨時職員は地方公務員法の適用を受けず、地公法には最低賃金法が適用されませんが、最賃を下回るようなことはあってはならないと思います。

方公務員法の24条には「職員の給与は、生計費、他の地方公共団体、民間事業の従事者の給与を考慮して定める」とあります。これを、考慮すると時給1000円は最低必要です。臨時職員の賃金改定の際には思い切った引き上げを強く求めます」と強く主張しました。

これに対し当局は「当然、最低賃金を下回るような事はないようにする」と答弁しました。ひきつづき入江次郎議員は、「地

そして、10月1日から時給700円、来春4月より713円となりました。